

# 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 23, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 June. 2017



## 地球を「はぎ取る」

2014年11月17日  
栃木県那須塩原市  
塩原層群宮島層(塩原湖成層)  
笠間友博 撮影

いしはま さえこ  
石浜 佐栄子(学芸員)

崖に接着剤をつけて地層の表面をはがし取った「地層はぎ取り標本」は、野外の崖をそのまま室内へと持ち込んで保存した標本であり、さまざまな地球の出来事を記録した地層の実物標本でもあります。地球の現在の姿と過去の歴史、いわば地球そのものをはぎ取った標本です。

写真は、火山のカルデラとしてできた湖の底にたまった約30万年前の地層をはぎ取っているところです。はぎ取り標本は、表面の粒子を薄くはぎ取ってくるの

で、じゅうたんのような形状になります。写真中央から右半分が崖に露出している地層そのもの、左半分がはぎ取られた標本で、地層の模様が左右対称に見えています。厚さ1mm程度の細かい白色と褐色の縞模様が冬と夏の季節変動をあらわし、1セットで1年を示します(年縞)。もう少し厚い灰色や黒色の層は火山が噴火した証拠、一番下には湖底で起こった地すべりで地層が乱れた痕跡も見えています。地層はぎ取り標本は、大地の多様な記憶を秘めているのです。